

幕末の対外交渉史

当館は、江戸時代の対外交渉に関わる資料を数点所蔵している。39から52でこれらを紹介する。

39	Mijne Lotgevallen in Mijne Gevangenschap bij de Japanners		
AN-77	1817-1818	Golovnin原著	
ロシア海軍中将ゴロウニンが、日本幽閉中に体験、見聞したことを記録した手記。ロシア語による原著のオランダ語訳。			

- ◆ ディアナ号艦長ゴロウニン(Vasilij Mikhajlovich Golovnin 1776-1831)は、文化8年(1811)5月、北太平洋の調査測量とオホーツクへの武器弾薬輸送のため、クリル(千島)列島へ向け出航した。6月末に択捉(えとろふ)島沖に到着したゴロウニンは、早速、択捉・国後(くなしり)島の調査に取り掛かるうとした。当初は日本人との間で友好的な交渉が行われたが、国後島に上陸したゴロウニン以下7名は、7月23日、松前藩に捕らえられ捕虜とされてしまった。彼らは松前と箱館に監禁され、2年3か月の幽閉生活を送った。

ゴロウニンは、松前、箱館において足立左内、馬場佐十郎、間宮林蔵らの知識人に接して、ロシア語やロシアの国情を伝え、それと同時に日本の学問の水準、国内体制、習俗、民族性などについて知識を得た。本書はこうした見聞を克明に記録した書物である。1816年にロシアで初版が発行された。英、仏、独、蘭などの各語に広く翻訳されている。

- ◆ 当館所蔵本は蘭訳本である。全2巻で、第1巻は1817年、第2巻は1818年の刊行である。第1巻の扉には、ゴロウニン一行の釈放に尽力した高田屋嘉兵衛の肖像がある。

「蕃書調所」「静岡学校」の印記をもつ。

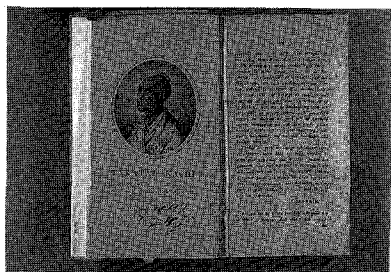
*複製本、マイクロフィルムあり。

40	遭厄日本記事(写本)	
AJ-12, Q215-26	Golovnin原著 高橋景保ほか訳	
ゴロウニンの日本幽閉中の記録の蘭訳(独訳からの重訳)を邦訳したもの。		

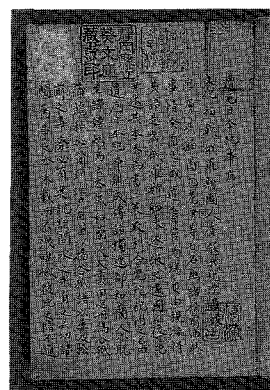
- ◆ ロシア語によるゴロウニンの原著は、英、独、仏、蘭語等に広く訳された。邦訳については文政4年(1821)に高橋景保(1785-1829)と馬場左十郎(1787-1822)が翻訳に着手し、同5年(1822)に『遭厄日本記事』として杉田立卿、青地林宗が訳了した。

- ◆ 当館は写本2部を所蔵している。葵文庫本(AJ-12)は12巻(欠巻9~12)・付録2巻の5冊、久能文庫本(Q215-26)は12巻・付録3巻の9冊である。蘭訳本は、カーレル・ヨハン・シキコルツによるドイツ語訳からの重訳である。

<参考文献> 以下は、いずれも現代語訳である。 『日本幽囚実記』(K381-533)
『日本幽囚記』(K381-694) 『日本俘虜実記』(291-333)



39 遭厄日本記事(オランダ語版)



40 遭厄日本記事(写本)